商業簿記Ⅱ

【第１２回】

テーマ６

有形固定資産の会計処理①

１．有形固定資産の期中までの仕訳を書き出して、金額を集計してみよう(P108～)

論　点	固定資産の購入（P 108・P120）			
仕訳例の金額	**①建物 一括購入の場合** 購入価額55,000円（小切手振り出し）、手数料等5,000円（現金払い）		**②建物割賦購入の場合** 取得原価100万円、５回分割払い（@21万円の手形を５枚振り出し）。購入時に前払利息を計上する。	
１.期首の仕訳	借方	貸方	借方	貸方
２.期中の仕訳 ⑴購入したとき（P 104・P 116) ⑵分割払いの場合で、１回分の手形21万円の支払い				

＜上記１.～２.における仕訳例の金額の集計する＞

T勘定（総勘定元帳）を使って仕訳の金額も集計してみてください。

＜残高試算表を作成する＞**一括購入の場合だけ集計してください。**

１～２.期中仕訳までを反映した「決算整理**前**残高試算表」を作成してみてください。

決算整理前残高試算表（一部）

× 年　3月31日

借方	勘定科目	貸方

２．減価償却の決算整理仕訳を書き出して、金額を集計してみよう(P109・P 115　）

<table>
<tr><td>論　点</td><td colspan="4">減価償却　　　　（P109 ～P 115）</td></tr>
<tr><td>仕訳例の金額</td><td colspan="4">建物 取得原価：60,000円、耐用年数：30年
残存価額：取得原価の10％、定額法</td></tr>
<tr><td>記帳方法</td><td colspan="2">① 間接法</td><td colspan="2">②直接法</td></tr>
<tr><td rowspan="2">３.決算整理仕訳
（P109・P115)</td><td>借方</td><td>貸方</td><td>借方</td><td>貸方</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

計算方法：

＜上記３.における仕訳例の金額の集計する＞～**上記①「間接法」の場合**

T勘定（総勘定元帳）を使って仕訳の金額も集計してみてください。

＜残高試算表を作成する＞

３.決算整理仕訳までを反映した「決算整理**後**残高試算表」を作成してみてください。

決算整理**後**残高試算表（一部）

×　年　3月31日

借方	勘定科目	貸方

３.集計した金額から財務諸表を作成みよう(P22・241 ）

損　益　計　算　書

Ⅰ	売上高	
Ⅱ	売上原価	
	１.期首商品棚卸高	
	２.当期商品仕入高	
	合　計	
	３.期末商品棚卸高	
	売上総利益	
Ⅲ	販売費及び一般管理費	
	営 業 利 益	
Ⅳ	営業外収益	
Ⅳ	営業外費用	
	経 常 利 益	
Ⅴ	特別利益	
Ⅵ	特別損失	
	税 引 前 当 期 純 利 益	
	法人税、住民税及び事業税	
	当　期　純　利　益	

貸借対照表

Ⅰ 流動資産	Ⅰ流動負債
Ⅱ 固定資産	Ⅱ 固定負債
有形固定資産	
	純資産の部
	株主資本
無形固定資産	資本金
	利益剰余金
投資その他の資産	評価換算差額等

４． 有形固定資産の期中の仕訳を書き出してみよう(P115～ ）その１

論　点	固定資産の売却（**P 115～P118**）設例6-3 ・6-4			
仕訳例の金額（いずれも**間接法**）	① **期首**に売却した場合 備品の取得原価5,000円、期首減価償却累計額1,800を期首に3,000円で売却（小切手受け取り）		②**期中**に売却した場合 備品の取得原価5,000円、期首減価償却累計額1,800を**期首から3ヶ月後**に3,000円で売却（**償却率20％の定率法**）	
期首・期中の仕訳 売却したとき （P 113・P 114)	借方	貸方	借方	貸方

減価償却費の計算：

論　点	固定資産の除却と廃棄（**P 124**）仕訳例06・07			
仕訳例の金額（いずれも**間接法**）	① **期首**に除却した場合 機械装置の取得原価5,000円、期首減価償却累計額1,800を除却。処分可能額は3,000。		②**期首**に廃棄した場合 機械装置の取得原価5,000円、期首減価償却累計額1,800を期首に廃棄。	
期首の仕訳 売却したとき （P 113)	借方	貸方	借方	貸方

除却とは：

廃棄とは：

<table>
<tr><td>論　点</td><td colspan="4">固定資産の買換え（P 125）仕訳例08</td></tr>
<tr><td>仕訳例の金額
（いずれも間接法）</td><td colspan="2">① 旧車両を売却した
車両の取得原価5,000円、期首減価償却累計額1,800を期首に3,000円で下取り</td><td colspan="2">② 新車両を購入した
新車両の取得原価6,000円</td></tr>
<tr><td rowspan="2">期中の仕訳
買換えしたとき
（P 125)</td><td>借方</td><td>貸方</td><td>借方</td><td>貸方</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>論　点</td><td colspan="4">固定資産の臨時損失１　（P 126・P127）仕訳例09･10</td></tr>
<tr><td>仕訳例の金額
（いずれも間接法）</td><td colspan="2">① 保険を掛けていない場合
倉庫の取得原価5,000円、期首減価償却累計額1,800が期首に焼失した。</td><td colspan="2">② 保険を掛けている場合
倉庫の取得原価5,000円、期首減価償却累計額1,800が期首に焼失した。なお、限度額4,000の保険契約を締結している。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">期中の仕訳
火災で焼失したとき
（P 126)</td><td>借方</td><td>貸方</td><td>借方</td><td>貸方</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>論　点</td><td colspan="4">固定資産の臨時損失２　（P P127）仕訳例11・12</td></tr>
<tr><td>仕訳例の金額
（いずれも間接法）</td><td colspan="2">② 保険を掛けている場合その１
先の②の損害で4,000円の保険金を支払う旨の連絡があった。</td><td colspan="2">② 保険を掛けている場合その２
先の②の損害で3,000円の保険金を支払う旨の連絡があった。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">期中の仕訳
火災で焼失したとき
（P 126)</td><td>借方</td><td>貸方</td><td>借方</td><td>貸方</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

【テキストP２０・２２】

損益計算書

○○株式会社　　自×7年４月１日　至×8年３月31日　　(単位：円)

Ⅰ	売上高		120,000
Ⅱ	売上原価		
	1．期首商品棚卸高	20,000	
	2．当期商品仕入高	80,000	
	合計	100,000	
	3．期末商品棚卸高	30,000	70,000
	売上総利益		50,000
Ⅲ	販売費及び一般管理費		
	1．給料	12,000	
	2．広告宣伝費	7,000	
	3．旅費交通費	3,000	
	4．租税公課	1,000	
	5．研究開発費	2,500	
	6．貸倒引当金繰入	500	
	7．減価償却費	4,000	30,000
	営業利益		20,000
Ⅳ	営業外収益		
	1．受取利息	1,900	
	2．有価証券売却益	3,100	5,000
Ⅴ	営業外費用		
	1．支払利息	4,300	
	2．有価証券評価損	7,700	12,000
	経常利益		13,000
Ⅵ	特別利益		
	1．固定資産売却益	1,000	1,000
Ⅶ	特別損失		
	1．災害損失	4,000	4,000
	税引前当期純利益		10,000
	法人税，住民税及び事業税		4,000
	当期純利益		6,000